

# 三重・下郡遺跡

- 1 所在地 三重県上野市下郡
- 2 調査期間 一九七八年(昭53)二月～四月
- 3 発掘機関 上野市下郡遺跡調査会
- 4 調査担当者 中森英夫・山本雅靖(上野市教育委員会社会教育課)、山田猛(三重県教育委員会文化課)
- 5 遺跡の種類 地方官衙遺跡(伊賀国伊賀郡衙推定地)
- 6 遺跡の年代 縄文時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

下郡遺跡の発掘調査は、木津川河川改修事業にともなって実施された。遺跡は伊賀盆地を南から北へ貫流する木津川(旧長田川)の西岸にひろがる沖積微高地にあり、一九七七年十一月以来の上野市教育委員会による遺跡範囲確認調査により、東西約四〇〇m、南北約七五〇mの範囲にひろがり、時代としても、縄文時代以降、鎌倉・室町時代に至る各時代にわたっていることが判明している。

遺構としては、古墳時代の竪穴住居址、奈良時代の溝址、平安時代以降の掘立柱建物址、室町時代の館址などが検出され、各時代の土器のなかには、緑釉陶器及び志摩式製塩土器も出土している。しかし飛鳥・奈良時代においては遺構、遺物ともあまり検出されていない。

木簡は、一九七八年度の上野市下郡遺跡調査会の実施した発掘調査により検出された井戸址から、多数の遺物とともに出土したものである。井戸址は発掘区の東隅から検出され、同時期の建物址等は明らかに出来なかったが、同時期の土師器片が周囲から比較的多く出土した。井戸の構造は、方形横棧型井側を三段に組み、掘方底面には円礫が敷かれている。内法としては径九〇×八〇cm、深さ約八〇cmである。井戸内からは木簡とともに、削掛け、横櫛、銅製鈴、黒色土器、土師器等が出土した。

なお、下郡付近はN2°Eの条里遺構が見られ、これに隣接した式内社猪田神社は延暦年間に勧請されたものという。また、下郡遺跡の東南約一kmには奈良前期創建の才良廃寺が知られ、西隣には円面硯等を出土した彼岸代遺跡等が所在する。

## 8 木簡の釈文・内容

・「沓縫阿□□□□祖□□□□

・「出可租稻七束四把四分延暦□ (2.65×2.1×3 0.2)

木簡は一点のみだが完形であり、両面に墨書されている。方頭で挟りはなく、下半部はやや幅広く、下端部は鈍く尖るという類例を見ない形状を呈す。「沓縫阿」は人名であろう。紀年は不明だが延暦年間(七八二～八〇六)であることが知られる。この下郡遺跡は伊賀国伊賀郡衙推定地として、同じ上野市内の南方約四・五kmにある古郡地区と共に注目されているが、郡衙推定地出土のこの木簡は、租稻徴収の実態を知る上で極めて興味深いものといえよう。

中森英夫・山田猛・山本雅靖

『下郡遺跡発掘調査報告』上野市教育

委員会・上野市下郡遺跡調査会

山田猛

『下郡遺跡試掘調査概報』三重県教育

委員会

一九七八年

一九七九年

(山田 猛)

### 三重・小判田遺跡

- 1 所在地 三重県四日市市芝田二丁目字小判田ノ字杉本
- 2 調査期間 一九七六年(昭51)九月十五日～十一月九日
- 3 調査機関 四日市市教育委員会
- 4 調査担当者 番条勇雄・北野保(社会教育課)
- 5 遺跡の種類 不明
- 6 遺跡の年代 古墳時代～鎌倉・室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

小判田遺跡は、市街地の標高約5mという低湿地に所在し、四日市市の文化財パトロールによって発見されたものである。

発掘調査は、市立四日市病院の建設工事に伴って行った。調査した個所は、試掘調査の結果をもとに、約一五〇m離れた南北二地区で実施した。

遺跡の概要は、南地区では、須恵器坏を伴う二×二間の掘立柱建物跡二棟と溝、山茶碗を伴う円形の井戸と考えられる土壇、同じく長方形の土壇で、その内部にU字状を呈したくりぬきの一本造りで両端の木口部分に加工の跡がみとめられる木棺状木製品などが検出された。また、北地区では、山茶碗を伴う土壇や溝と柱根が多数検出された。

検出した遺物は、須恵器、土師器、緑釉陶器、二彩陶器、磁器、

